

(法第28条第1項関係様式例)

2010年度事業報告書

NPO法人 エコロッジ協会

1 事業の成果

本年度実施した事業は下記の通りである。

1) インドネシアエコロッジ[2010年03月11日(木)]

インドネシアエコツーリズムネットワーク (INDECON) と観光省の招待で、コモド島へ行ってきました。日本では、島よりもオオトカゲの方が馴染み深い。この島はコモド国立公園の一部となっており、ダイビングでも人気がある。ここにもエコロッジがある。その名も「Bajo Komodo Eco Lodge」インドネシアでは、2010年現在4軒のエコロッジをアピールしている。日本ではまだ認識が低い認定制度を積極的に導入し、インドネシア国内で初めてのグリーングローブ認証をウダヤナ・キングフィッシャー・エコロッジは受けている。



<コモドエコロッジにあったポスター>



<清潔感ただようコモドエコロッジ>



<自然に囲まれたプール>

エコロジ協会はINDECONとパートナーシップを通じて、インドネシアのエコロジを支援することになった。具体的な支援事業については今後協議の上、決定していきます。

インドネシアのエコロジ

○Rimba Orangutan Eco Lodge：川沿いの熱帯雨林にあるエコロジ。オラウータン財団と連携し、野生動物の保護を手がける。テングザル等珍しい動物にも遭遇できるかも！

○Satwa Elephant Eco Lodge：スマトラのゾウやトラの保護活動を通し、環境教育を滞在を通して学ぶ。

○Bajo Komodo Eco Lodge：コモド国立公園でのアクティビティーは島と海。オオトカゲにも遭遇します。ただし、生息地域が限られているため、船での移動となります。

○Udayana Kingfisher Eco Lodge：バリ島のデンパサール空港から15分とは思えない立地。チョウや鳥類の保護活動をしています。

2) 持続可能な観光の世界基準[2010年04月29日(木)]

国連環境計画(UNEP)と国連財団(UNF)の指揮下において、アジア太平洋におけるサステイナブルツーリズム(持続可能な観光)に関する認定制度を持つ団体を中心に協議が香港にて行われました。

エコロジ協会は認定会員施設がまだないものの、登録認定制度を持っていることで召喚されました。同じテーブルには先日パートナーシップ構築で立ち会ったインドネシアエコツーリズムネットワークをはじめ、国際的に有名なタイのグリーンリーフ、エコツーリズム協会関連ではオーストラリア、タイ、モンゴル、インド等から呼ばれているよ

うでした。二日間にわたる協議をしましたが、世界には数百もある認定制度を世界基準化するのには容易ではありません。

観光産業ではエコ偽証が大きな問題となっており、国連がとうとう最低ラインのチェックリストを出してきました。3年くらいで認定制度まで導入したい考えだそうですが、なかなかハードルは高そうです。エコロジ協会も会員の数より質を高めるべく、活動をしていきたいと考えています。

3) FEALACエコツーリズム会議[2010年05月12日(水)]

FEALAC（アジア中南米協力フォーラム）Forum for East Asia - Latin America Cooperationのホスト国である韓国はエコツーリズムをキーワードにフォーラムを5月12日に開催しました。エコロジ協会はその中でも地球温暖化対策やエコロジに関しての講演を頼まれました。

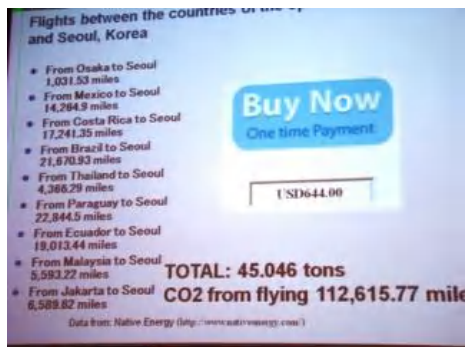
フォーラムはアジア勢と中南米からのラテン諸国の観光大臣クラスの方々を招かれ、いささか場違いを感じつつの参加となりました。



<日本人を体現して講演>

講演の題目は「Eco-lodging Industry Can Win the Biggest Ever Challenge: Climate Change」エコ宿産業は地球温暖化という難題を乗り越えられる！というような内容です。

いつもビジネスやファーストクラスで出張されている政府高官の方々を槍玉に今回の韓国出張のカーボンフットプリントを見せました。スピーカーだけで約45トンを排出しています。また、今回参加で最も一人当たりの排出量が少ないパラグアイでは、今回の長距離フライト往復で13.5年分を排出してしまっている事実も説明。



<どよめきが出たカーボンフットプリントの数字>

その後はちょっとした気づきでも省エネできること、協会が得意とする宿泊施設における省エネ診断と研修会、実例に基づく省エネ効果やフードマイレージについて言及しました。国レベルの観光政策の話が多かった中、NPOとしての活動を紹介できたことはとても意義があると思われます。

ポスト会議二日目はチェジュ島へ飛行機で移動。世界自然遺産の登録後二回目の訪問となりましたが、韓国全土から集まる修学旅行生らの団体が多く、自然を楽しむまでには残念ながらいたりませんでした。また海女さんが時間になるとパフォーマンスをしますが、まるでショーのようで、観光化された商品になっていました。



<海女さんが歌っているが。。>



<これだけいると辛い。。>

3日目はそれでも、オルレ(OLLE)と呼ばれる待ち歩きにもトライしましたが、やはり修学旅行生と衝突！韓国でのエコツーリズム振興はまだまだのようです。

4) 観光における能力開発プログラムinマレーシアその1 [2010年07月13日(火)]
マレーシアの財務省からの交付金で地方の観光資源の発掘と持続可能な観光を通じた地域活性化を目的にマレーシアエコツーリズム協会、国際教養大学、エコロッジ協会がマレーシアの3箇所において研修会を行うこととなった。

全ての集落において観光資源や人材が違うため、現地入りをしてから数日間の視察をした後、その場で作成した内容に則して研修会を行うこととなった。初めに訪問したのは、ペラ州のイポ、カンパー・ゴペン市と集落。イポはペラ州の州都であり、国内でも3番目に大きい、それはスズの生産によって産業が発達してきたからだが、今ではその面影も少なく、産業の衰退と人口流出に歯止めがかかっている。中心地は空洞化しつつあり、中国系の億万長者達のかつての豪邸が立ち並んでいた。この街を通る道を逸れること20分程度でマレー系集落に到着。

この集落ではホームステイの受け入れをはじめつつあるが、政府の交付金を利用したトイレの改修が一部しか完了していない。しかし住民の熱意は言語の壁を越えて伝わってきた。このままではいけないという危機感はあるが、ノウハウがない、またプログラムに関して観光資産に気付いていない様子であった。



<集落から近い洞窟のある自然学校>

集落周辺の視察を行い、また多くの人との対話を深めていく上で観光資産を見つけることができた。石灰岩が多い地形を利用した洞窟体験や自然学校の木登り、ドリアンやランブータンなどの農園での食体験、そして歌や踊りの文化体験。数日間の滞在には十分すぎるほど。



<研修会の講師・参加者らと>

エコロジ協会としては、特に日本人向けにホームステイの質をどうあげるのか、やはりトイレトーパーはあった方がいい（基本的に不浄な左手で水洗い）、言葉の壁をどう乗り越えるか等を中心に研修をすすめました。食べ物についても、右手で食べ、質素なエコ食ですが、衛生面での妥協は許されないことを強く指摘しました。



<伝統的な子供受け入れの儀式>

少しでも、集落の良さをアピールしようと、多くの住民が夜11時くらいまで伝統的な儀式を披露してくれたり、先住民族や自然プログラムの受け入れに対して柔軟に対処して頂けることとなりました。

5) 世界サステイナブルツーリズム基準に関する会合inCOP10名古屋[2010年10月22日(金)]

2010年は生物多様性条約締約国会議(COP10)が開催されましたが、今年4月でもブログでご紹介しました持続可能な観光の世界基準についての会合が持たれました。

<http://blog.canpan.info/ecolodge/archive/44>

発表者はCBD、レインフォーレストアライアンス、IUCNと大きな団体が肩を並べましたが、エコロッジ協会はこの基準適応についての考察と日本の市場における現況についてのプレゼンを依頼されました。今年インドネシアのエコロッジとパートナー関係を気づきましたが、そのオーナーも来られていました。



【ケーススタディー等の発表の様子】

発表の内容は、エコロッジでは独自の110項目の基準を持っていること。国際基準利用の可能性とその影響、市場へのメリット等です。

6) 都美山で紅葉散策と宿泊体験[2010年10月30日(土)]

協会加盟施設「美山ハイマートユースホステル」の協力で、美山の良さエコ宿についてふれあう交流重視の宿泊体験を実施しました。

30日は夕方頃に到着。施設や施設周辺を散策し、31日は美山周辺の観光資源の観察と昼食を頂いてから帰路へ。実際に宿泊し、エコと経済とのバランスを考えながら出来ることから実践するオーナーを囲んでの交流会になりました。秋の味覚を楽しみ、紅葉シーズンの週末を満喫することができました。この施設は移築された茅葺き屋根の純和風のお宿で、ユースホステルを利用される国内外からのお客様が喜んで滞在されているようです。



【写真1：茅葺き屋根裏部屋の見学】

食事は地産地消、有機野菜をメインに使われており、裏庭や近辺から収穫された野菜や眼前に広がる「光る米」は安全だけでなく、栄養バランスに優れており、美味でした。



【写真2：夕食】



【写真3：朝食】

宿はやはり落ち着ける空間があること、旅路での出会いは新鮮かつ楽しいもの。自然にも人間にも優しい宿はこれからも増えていくことを願っています。



【宿泊体験参加者】

7) 界トレイル会議2010in韓国濟州島[2010年11月08日(月)]

世界でトレイルに関する初国際会議が2010年11月7日から二日間にわたって韓国の濟州島ヘビチホテルにて開催されました。

エコロジ協会では、8日のパネルディスカッション1の基調演説としてトレイルツーリズムをいかに保護活動と連動して振興するかという「Linking Conservation to Trail Tourism」に関する発表を担いました。



【パネル討議の様子】

まずは、どのツーリズムにおいても持続可能性が大事なこと、特に世界自然遺産を持つ濟州島では、自然を利用したエコツーリズムの手法を用いることが望まれるため、国際エコツーリズム協会の定義を引用し、保護管理計画策定の重要性を中心に話しました。

- 1) 自然、文化、歴史的な重要性の査定
- 2) 管理体制の査定
- 3) 保護の目的とルールの策定
- 4) 管理計画の実施
- 5) 結果の検証と計画の再確認

以上のカテゴリに分けてご紹介しました。

最終日は濟州島のオルシと呼ばれる路地歩き、軽いハイキングに財団の方々や参加者と楽しみました。驚いたのはメディアの数と軍隊による引率です。



【見晴らしの良い丘での貴重な体験】



【放し飼いの馬と歩く】

濟州島には幾度か訪問させて頂いておりますが、オーバーユースによる自然劣化や観光としての質の低下が顕著に垣間見れる場所があります。これらを踏まえ、主催者の濟州島オルレ財団の皆様とは、短期・中期・長期計画の策定や危機の共有について協議しました。